

児童・生徒の現状・課題

知識・技能や判断力は身につけていると感じている一方で、「自ら問題を見いだす力」や「論理的に考える力」が低いと感じている。また「自ら計画を立てて学習する力」を身につけたいと考えている生徒が多い。



学び続ける力を育むための重点目標

○子どもたちが自らの学習に主体性・当事者意識をもち、自ら見通しを立てて計画的に学習を進めることができるようにする。



具体的な手だて①

授業の冒頭で学習課題や単元全体の流れを示し、生徒自身が学習計画や目標を立てる場面を設定する。

具体的な手だて②

授業の途中や終わりに、自らの学習を振り返り、理解度や進捗状況を確認して学習方法を修正する機会を設ける。

具体的な手だて③

課題や目的に応じて、調べる相手や話す相手、学習ツールなどを生徒自身が選択できる場면을意図的に設定する。



校内で共有し、授業改革を日常化するための工夫

日々の授業実践や気づき、相談内容を共有できる場を作る。授業観察時に、互いの授業を評価し合う機会を設け、協働で改善を図る。

※肯定的回答の割合(%)

| 児童生徒調査 | 昨年度 | 目標(5月) | 結果(1月) |
|-------------------------------------|------|--------|--------|
| ①自分から進んで計画を立てて学習している。 | 59.5 | 65.0 | 76.6 |
| ②学習をしてもできないようにならないときは、学習の方法を工夫している。 | 46.1 | 50.0 | 62.8 |

| 教員調査 | 昨年度 | 目標(5月) | 結果(1月) |
|---|------|--------|--------|
| ①授業では、学習課題や学習過程等、児童が学び方を選択する場面を設定している。 | 56.3 | 56.3 | 83.3 |
| ②学習をしてもできるようにならないときは、どうすればよいか、見通しをもたせている。 | 87.6 | 87.6 | 88.9 |

総括(5月)

アンケート結果から、生徒たちは基礎的な知識・技能や対人関係の力は身につけていると感じている一方で、学習の計画を立てたり、課題を自ら見いだしたりする力に課題意識を持っていることが明らかになった。そこで、今回の授業改革では、生徒が受け身の学習から脱却し、自らの学びを自ら計画・選択・評価できるような授業を推進していく。教員がそのための適切な手立てを授業に組み込むことで、生徒の「学び続ける力」を育てていくことを学校全体で目指す。

総括(1月)

アンケート結果から、児童調査では、「自ら計画を立てて学習する」が76.6%に、「学習方法を工夫する」が62.8%に伸び、主体的な学びの定着が進んだ。教員調査でも、課題や過程を選択させる場面の設定が56.3%から83.3%へと大きく向上し、校内研究や研修の成果が表れている。ただ生徒の調査項目は、中学校3年生が受験期に差し掛かった影響もあると思われる。